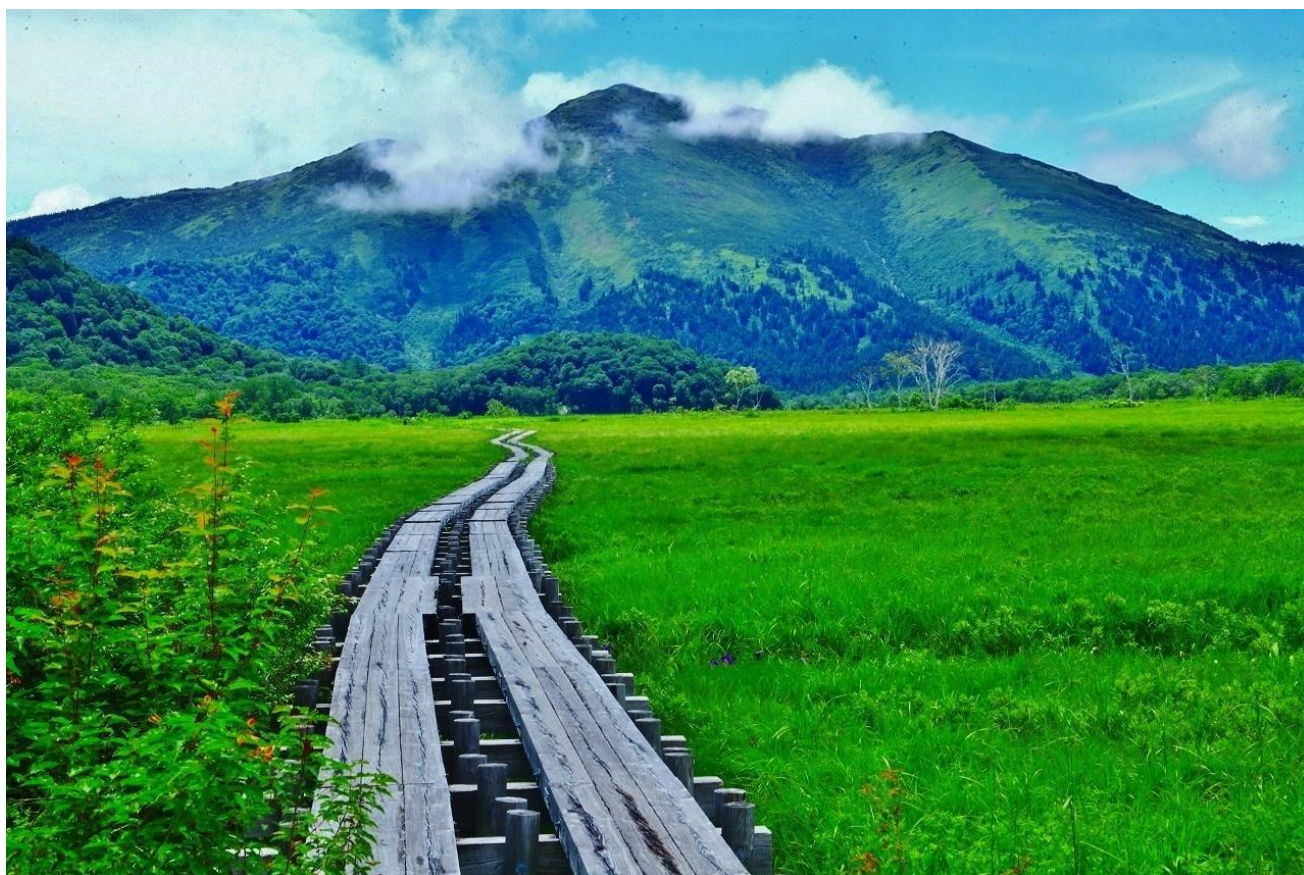


山岳友の会会報

2020年9月 第38号



至仏山望む 中田代 撮影：荻野 秀夫

も く じ

第47回現地研修会（尾瀬）	報告1 出澤 三五子……………2
	報告2 遠藤 真広……………3
	報告3 渡邊 修……………4
第47回現地研修会（尾瀬 お花）	報告 村重 恵美……………10

第47回現地研修会（尾瀬ヶ原と至仏山）報告 その1 《燧ヶ岳・至仏山健脚コース：1～2日目》

出澤 三五子

初めての尾瀬。童謡「夏の思い出」♪夏が来れば思い出す はらかな尾瀬 とおい空♪
どんな空が観られるのか？日本百名山である燧ヶ岳、至仏山の登山とても楽しみにしていました。

1日目 松本駅発のバスに途中千曲川さかきPAより中嶋隊長と乗車。2泊3日14名での研修会となり、今日の目的地である尾瀬沼「尾瀬沼ヒュッテ」へと走ります。

2日目 燧ヶ岳トライコース8名で怪しい空模様の中、カッパを着て6時出発。尾瀬沼を左手にぬれた木道を歩きはじめると、ニッコウキスゲが出迎えてくれた。鹿よけの柵を開けて通り、長英新道(5.4km)を登って行く。久しぶりの登山せつかけ組に遅れないよう必死に歩く。転ばないように足元ばかり気にしている私に隊長が、「上も観ると景色が違うよ」と教えてくれた。確かに登山始めとは違った。4合目あたりから急坂ガレ場が出てきた。鹿の足跡、草を食べた様子が伺える。7合目ハイマツ、薄ピンクのシ



尾瀬沼ヒュッテ前にて16日朝

ャクナゲが雨に濡れしっとり咲いている。9合目一気に岩場を登り、9:20頃山頂に着く。ピークの俎ぐら(2,346m)には祠と三角点があった。ここで弁当を食べ10:00前に下山。すぐにもう一つのピークである柴安ぐら(2,356m)を通り、美晴新道(3.5km)を下る。しばらくすると、急斜面はぬかるみでドロドログチャグチャがずーっと続く。長雨が続けていたからなのか、まだまだ続く。12:50 やつと美晴新道登山口分岐に出た。長かった。こんなに足場の悪い登山道は初めてだった。

美晴無料休憩所で一休み、ここで青空がでてきた。カッパを広げ泥靴を洗いビールを頂き元気をつけ、今日の目的地「至仏山荘」山ノ鼻まで歩き始める。最高の天気になり前方には明日登る至仏山。振り向くと燧ヶ岳がくっきりと見える。あの頂上でこの景色が観れたら最高だったと思いながら、しばらく進むと尾瀬ヶ原満喫コースの3人と会い、可愛い花に癒されながら無事宿に到着。美味しい夕食とビールを頂き、長い一日は終わった。

久しぶりの楽しい研修会、参加された皆さまお世話になりありがとうございました。

♪はらかな尾瀬とおい空♪ 膝の青あざがまだ少し痛みます。

♪はらかな尾瀬とおい空♪ 膝の青あざがまだ少し痛みます。



燧ヶ岳 上田代逆さ燧の池塘

【写真：荻野 秀夫】

燧ヶ岳と至仏山に登る

一第47回現地研修会（尾瀬ヶ原と至仏山）報告 その2— 《燧ヶ岳・至仏山健脚コース：2～3日目》

遠藤 真広

7月16日、研修会二日目の燧ヶ岳は、50年ぶりの頂だった。同行の小林さんも50年ぶりだということだが、兩人とも歩いている道にほとんど記憶がないというのは、不思議だ。そのとき、ちゃんとメモをしておかないと、振り返ることがないからかもしれないと今さらながら反省。雨模様の長英新道は展望があまりない単調な登りで、「つまんねえ道だなあ」という正直な嘆きの声もあがった。それでも、だれでも登れるやさしい道をとるという思いでこの道を作ったという



池塘と浮島 モウセンゴケ(赤い部分)竜宮十字路付近

長蔵小屋二代目平野長英さんの苦労に思いをはせつつ、登る。このルートは長英さんがスキーで下るルートに沿って作られたのだそうだ。

尾瀬の木道は滑るという昔の記憶がかすかに残ってはいたが、燧ヶ岳から下りの木道は長雨の影響もあってツルツルで、想像以上の難物だった。メンバーで滑らなかった人は皆無ではないだろうか。尾瀬沼から尾瀬ヶ原に抜けた組もずいぶん滑ったらしい。山から帰って友人にたずねたら、「リバーシブルグリッパー」というゴム製の滑り止めがあるという。通販で売られていると教えられ、さっそく手に入れた。

木道はあちこちの山にあるので、これは役立つと思う。いつからこんな便利な製品が出回っていたんだろうか。ただし、友人の経験では、テレビの撮影取材山行で、6日間でゴムの滑り止めが効かなくなったそうだ。滑り止めのザラザラの部分は張替えが効くらしい。

燧ヶ岳から降り立った見晴し十字路から至仏山荘までの、なんと遠かったこと。尾瀬ヶ原ってこんなに広がったっけ……。とぼやきながら疲れた足で山荘をめざす。雨模様だったが、尾瀬ヶ原に着くと晴れて快適な原っぱ歩きとなった。こんなに人のまばらな尾瀬は初めてだ。それにしてもニッコウキスゲが少ない。渡邊さんによると、増えすぎた鹿による食害だとのこと。途中の「竜宮」の伏流水で、地名の由来を初めて知る。(みなさんがテレビで見た映像がすごかったと口にされていたNHKの番組、「サイエンスZERO 尾瀬、知られざる地下世界」を見逃していたので、あとでオンデマンドで見ました。)

2泊目の至仏山荘は、前日の尾瀬沼ヒュッテ同様に、これが山小屋かと思うほど快適で立派だった。どちらのお風呂も素晴らしく、これではテント泊には戻れそうにありません。

翌日17日、至仏山への山登り組9人は午前7時に出発。尾瀬ヶ原散策後に鳩待峠まで歩く6人に山荘前で見送りを受ける。山荘側の食事手配の事情から、山登り組は、前日の夕食後に



雨あがりひたすら歩く牛首分岐付近

配られた、冷たくなったおにぎり4個と黒い温泉たまごを手にして出発。小雨ともやに包まれて、尾瀬ヶ原から見上げた直登路をひたすら登る。しばらく登って森林限界に近づいたころ、短時間ながら尾瀬ヶ原と燧ヶ岳が一望できたので、ようやく一同満足。途中から蛇紋岩が露出していて、足元が滑る。ちょうど、『三つの石で地球がわかる』(講談社ブルーバックス)という本を

読んでいたところなので、足元の石を確かめつつ登る。

一方、ここは「花の百名山」で名高い至仏山。きのう尾瀬ヶ原歩きで少し豊富になった高山植物に新たな名前が次々に加わって、わが記憶脳は大混乱。白馬から参加の村重さんや写真撮影に余念がない熊谷さんに一つひとつ教えていただき、何度も名前を口にしているうちにすっかり覚えて、高山の花をめぐる至福を味わう。触るといい香りが漂うイブキジャコウソウがすっかり気に入った。山頂から眺める上越国境の平ガ岳や越後三山の景色を楽しみにしていたら、霧で何も見えなかったのが心残り。やっと頂上に着いたと思ったら、とっくに着いて昼飯をすませた先行組は、さっさと出発してしまった。後行の4人はあわてて昼食をつめこみ、やっこらと後を追う。小至仏山への途中で見たミヤマアゲハのけなげな姿が印象的で、忘れられない。70歳を超えたら、どんな生き物もおしく思うようになった。先行組に遅れること30分、下りの木道歩きで神経を使い果たした足が限界に近づいた頃、車が待つ鳩待峠にたどり着き、自動販売機に直行。冷え冷えの缶ビールで生き返った。



未の刻に咲くヒツジグサ

【写真：荻野 秀夫】

【写真：荻野 秀夫】

【写真：荻野 秀夫】

第47回現地研修会（尾瀬ヶ原と至仏山）報告 その3 《尾瀬沼・尾瀬ヶ原満喫コース：2～3日目》

渡邊 修

16日(木曜日)二日目

15日(水)昨夜は早めの20時前に就寝したため4時過ぎには起床。(遠藤、細萱、中嶋、渡邊の4名部屋)軒部屋と分けてくれた部屋割りのお陰で熟睡。感謝！感謝！残念ながら朝から雨降り、どうやら今日は一日雨降りになりそうだ！

健脚の燧ヶ岳登山組の8名をお見送りした後に平



場組6名(荻野、滝沢、田下、竹原、村重、渡邊)の朝食。(荻野さんは既に済ませたとのこと！)昨日、平場組の朝食に変更してもらうように厨房にお願いするも、既に用意している最中とのこと…！後10分早ければ…！平場組同様の一般の朝食になったのに…！(荻野、渡邊分)

平場組の朝食は豪華で虹鱒の甘露煮、野菜サラダにロールスライス、グレープフルーツ付き、温泉卵、納豆に海苔、煮



物に充実野菜ジュース…！「おにぎりの朝食組」と随分な違いに驚き！後10分早ければなあ…何とも残念！それでも温かいお茶に味噌汁を食べられたことは有難い。

朝食を済ませ身支度を整え平場組6名で8時過ぎ？に尾瀬沼ヒュッテを出発。時折雨は止み曇り空にはなるものの晴れるのを期待するのは…！流石にこの梅雨時には難しい。尾瀬沼ヒュッテを出て間もなくすると、我々を熱烈に歓迎してくれているかのように「ニッコウキスゲ」-



面の花盛り。想像以上に多くの花が咲き誇り驚きだ！



霧ヶ峰、美ヶ原のようにニホンジカの食害による被害はないのだろうか？と思いつつ、ニッコウキスゲ、集合写真等を撮りながら足を進める。湿原に咲くワタスゲは雨に濡れ、まるで濡れ鼠の様でどこか悲しげだ！コメツガ、シラベ、ダケカンバ等樹林の中の木道を更に進む。木道は雨でツルツル。まるで「アイスバーン」のようだ！僅かな気の緩みで足元をすくわれ大きな怪我に繋がる。昨日、尾瀬山荘脇で足を滑らせて転んでしまった。今日は転倒して怪我をしないように歩幅を狭くしながら更に重心を低くして

(元々他の者と比べてもかなり重心は低いのだが…！)一歩一歩慎重に足を運ぶ。

～「雨降りの 尾瀬の木道 ひた歩き！」～

暫く歩くと看板が出現！林野庁(東北森林管理局 会津森林管理署南会津支署)で実施している防鹿柵(高山植物等をニホンジカの食害から守るためのネットの柵)が設置されているゲートを通る。ゲート先の木道にはグレーチングが敷かれている。ニホンジカはグレーチングに足が挟まってしまうのでこの場所は通らず回避する。流石に良く考えているなあ！中部局では今までなかったけれどもこれは使えるなあと感心！

昨日、宿の乾燥室で迷彩服を着て猟銃を持ったハンター？(〇〇調査中の腕章をしていた)から話を聞いたところ、「環境省の委託事業でこの宿に宿泊しながらニホンジカの捕獲駆除を実施している。林野庁にもお世話になっている。」とのこと。なるほど！昨日の夕方と今朝の5時頃にも銃声が聞こえたのはこの者だったのだろう！ニホンジカによる食害対策はこの尾瀬一帯でも深刻な問題の様だ。



更に足を進める。おっと！足元が滑る！それにしてもこの木道は本当に良く滑るなあ～。

浅湖湿原を抜ける頃には既に荻野、滝沢、田下3名の姿はなく見晴へと先を急いだ様だ。

私は女性陣に花の名前を教えてもらいながらゆっくり写真を撮りながら沼尻を目指す。途中、一時は雨が止み幻想的な尾瀬沼の写真も撮影できたので気分は上々。

新型コロナ禍、梅雨時期とあって会う人たちは極めて少ない。本来、この時期であれば大勢の観光客が訪れている筈なのに、逆にこんなに人のいない尾瀬に出会えたのはラッキーだったかもしれない。(2日目の宿(至仏山荘)の方に尋ねたところ例年の何十分の一ぐらいと言うほど人は少ないらしい！)

沼尻の近くまで来たが中々女性陣が来ない。5、10分待ってもまだ来ない！様子を見に戻ると漸く此方に向かって歩いて来る。女性陣曰く「写真を撮っていた。」とのこと。どうやら10m歩いては撮影、また10m歩いては撮影…の繰り返し！花を見て感動、樹木を見て感動、景色を見て感動…！どうやら感動の連続だった様子だ。

本日の宿泊地「至仏山荘」への到着予定時刻は15時。距離は17km、途中で昼食を1時間取りゆっくり歩いても15時30分頃には到着出来る筈だ。そう！足元も悪い。今日もボチボチ行こう…！

白砂峠を越えて沼尻川沿いに暫く歩いていると小川が出現。流木の上に生えている苔は見栄えがする。恐らく荒れることのない川だろうなと思いつつ橋の上で写真を撮っていると前方からご夫婦らしき方が歩いて来た。

橋の隅に寄って避けていると、何と言うことか！先を歩いていた旦那さんが私達の目の前で足を滑らせ木道を踏み外し転倒してしまった。「これは大変だ！」



少し下り坂になった木道でとても滑りやすくなっていたために転倒してしまったようだ！「随分派手に転んだけど…！大丈夫かなあ？」直ぐさま駆け寄り怪我がなかったか尋ねると「手首を痛めた！痛い！」とかなり痛がっている。奥さんと思われる方もかなり動揺している。まずは落ち着かせることが一番！「直ぐに手当をしますから心配ないですよ！」と先ず深呼吸させ安心させてから応急措置の準備に取り掛かる。女性陣も手際よく手当に必要なであろう物を用意しながら旦那さん、奥さんを共に勇気づける言葉を掛けてくれた。咄嗟の神対応に感謝、感謝！

どうやら転倒した際に運悪く木道の枕木で右手首付近を強打したらしい。「指を動かせますか？」と聞くと「何とか…！痛い…！」右手はあっという間に腫れあがり大変な状況になっていることは容易に想像がつく。開放骨折ではないもののどうやら骨折が疑われる。早く副木（添え木）で固定させなければ！副木になるものはないかと尋ねると幸いにも折りたたみ式のストックを持っているとのことで急いで用意をしようが、奥さんは動揺して中々リックから取り出せない。旦那さんはショックや痛みで顔面が蒼白になってきている。兎に角落ち着かせるために持参しているお茶を

飲んでもらう。機転を利かせて村重さんが昼食の弁当に入っていた「塩羊羹」を出してくれたのでこれを食べさせながら気持ちを落ち着かせてくれた。このタイミングでナイスな対応だ！

ストックにタオルを巻いて副木を作製。副木となったストックは軽量で指先から肘迄固定できる丁度良い長さで、タオルを巻いたことでクッションになり患部にも負担が掛からずに上出来だ。持っていた収穫調査用のナイロンテープで手のひらを固定していると一人の男性が通り掛かった。話を聞くと冬場にこの尾瀬でパトロールをしているとのこと。何とも頼もしい助人が加わった。感謝！感謝！状況を説明するとやはり骨折の可能性が高いと判断。早速、持っていた絶縁テープを取り出し肘の方を副木に固定してくれた。後は三角巾、タオル等で首から掛けて上腕を固定することができればほぼ完璧。奥さんはベルトがあると言うのでベルトを三角巾の代用に。上腕を首から掛けたベルトで固定したことで患部は随分負担が軽減された。村重さんが尾瀬沼ヒュッテでもらった新品のタオルを固定した腕に巻き、竹原さんがもっていたナイロン袋を被せて漸く完成。

旦那さんは痛みがあるものの随分落ち着いてきた様子で痛がるものの顔色は良くなり先ずは一安心。怪我をされた方は静岡県から来られたご夫婦で大清水の駐車場まで戻る途中とのこと。レスキュー保険等には加入しているとのことでしたがこの雨降りではガスの中をヘリが飛行するのは困難。取り敢えず左手でストックを使用しながら木道の滑り、転倒に注意しながらゆっくり尾瀬沼ヒュッテまで下り、再度宿の方に手当をしていただく様にアドバイスをしてみ送りました。（尾瀬沼ヒュッテまで恐らく2時間以上も歩かなければならないので本当に大丈夫だろうか？と案じつつも…！）今まで経験したことがないアクシデントに最後の最後に怪我をしてしまったと悔やんでいましたが、明日は我が身…！気をつけなければ…！と自分に言いかけず。慎重！慎重にと！思いながらゆっくり歩くも途中木道で滑って本日初の転倒をしてしまった。幸い怪我をしなくて助かった。

（後日、尾瀬沼ヒュッテに電話をして確認したところ、16日に怪我をされた方は立ち寄らな



かったとのことでした。違う宿の尾瀬沼山荘に寄ったのかな？それともまさか…！無理をして大清水まで行ったのかな？奥さんは免許を持っているけど余り車を運転したことがないと言っていたので…！何れにせよ無事に下山して医者で受診され帰宅できれば問題なしです。）

人助けをして気分を良くしたところで見晴に向けて出発。途中で健脚組の下山コースの分

岐辺りまで来ると天気も次第に回復傾向となり時折青空も見えてきました。

下山コースの歩道は川のように水が流れ…！正にこれは川だ。この川を下山してくるのは気の毒だなと思いつつ少し歩くと漸く見晴に到着しました。時刻は 12 時ジャスト。何と此処までの所要時間は 4 時間！コースタイムの 1 時間オーバー。（人助けをしてこの時間なら上出来だ！）



見晴では閉店の宿もありましたが此処で昼食となりました。荻野、滝沢、田下 3 名の姿は何処にも見当たりません。どうやら先を急いだ様です。（宿に到着後聞いた話では見晴で昼食を取り随分と長い時間待っていてくれたようですが…！待てども、待てどもちっとも来ないので流石にしぶれを切らし出発したそうです。連絡しようにも携帯電話は使用できないし…！）

女性陣は休憩所で、私は外のベンチでゆっくり昼食（朝食用のおかずを残しておいたのでちょっとリッチ！）を取ってから 13 時過ぎに見晴出発です。前日、健脚組の皆さんから「三条の滝へ行っておいで！」と勧められたのですが、見晴から片道 3.2km100 分、往復 6.4km200 分…！これはちょっと厳しすぎるぞ…と断念！

女性陣の希望により東電小屋回りで竜宮（3.2km100 分）のコースを選択。

水量豊かな只見川に架かる東電尾瀬橋を渡り新潟県へ東電小屋で一息、その先では木道を整備している尾瀬林業の作業を見ながら「お疲れ様です」と一声掛け、ヨッピー吊り橋へ既にここは群馬県です。竜宮までは花を愛で写真を撮りながらゆっくり歩きました。天気も回復し、なんと青空も出始めました。日射しも強く合羽も傘もあつという間に乾いてしまいました。

竜宮に来る途中すれ違った方から「ツキノワグマ」の目撃情報があるから気をつけるようにとのアドバイスがありました。昨日も目撃情報があり、毎朝、東電小屋のある与作岳方面から食事に来ては夕方（夜）には山へ戻って行くとのことでした。残念ながら我々がツキノワグマを目撃することはありませんでした。運が良かったのか？それとも悪かったのか？

青空になり健脚組が登った燧ヶ岳、明日登る至仏山も共に山頂が見えて写真を撮ることができラッキーでした。

竜宮から牛首を目指して歩いていると後方に見慣れた面々が…！お～っ！健脚の燧ヶ岳登山組の 4 名（遠藤、小林、熊谷、出澤）ではありませんか！既に我々を追い越して宿に向かっていていると思いましたが…！まさかこのタイミングで合流できるとは思いませんでした。先発の（細萱、中嶋、鈴木、立花）はかなり先を歩いているとのことでした。

尾瀬の名所である竜宮現象、池塘、可憐な花等を見ながら本日の御宿、山の鼻の「至仏山荘」を目指します。

沼ではヒツジ草の花が可憐に咲き、池塘のキンコウカ、木道脇にはアヤメ、トキソウ、サワ

ラン、ワタスゲ等の花が見事に咲いていました。

～「尾瀬ヶ原 池塘に揺れし 金光花」～

牛首分岐を過ぎると宿まで 2.2km 所要時間は 40 分です。此処で一休み。ずっと背負ってきたビールで乾杯！各自持っているつまみも供され、さながら小宴会です。（ビールは昼食時に飲む予定で背負って来ていたのですが、男衆は先に行ってしまったし、女性陣は飲まないと言うので一人で飲むのは気が退けて…！飲めずに持っていたので丁度良かった！ちょっとぬるいけど美味しい！）お陰様で荷物も約 1k は減りました。

また宿を目指して歩きます。午後からは殆ど雨にも降られずに宿に到着したのは既に 15 時 30 分を回っていました。

本日の歩行距離約 17km 良く歩きました。宿に到着すると前日のヒュッテ同様に体温測定！ここで大丈夫だと使い捨ての枕カバー、襟布、敷布をもらう。今日の部屋割りには…遠藤、細萱、渡邊の 3 名！今日も間違いなく熟睡出来る。今日も有難い！



夕食前にテラスで軽く一杯で盛り上がりました。さて、お風呂に入って夕食だ！

生ビールを購入！小さなコップ一杯で 700 円は高い！新型コロナウイルス感染防止対策のため壁に向っての夕食となりました。夕食を済ませて部屋での宴会も随分盛り上がり 21 時？には早めのお開きとなりました。



キンコウカ

アヤメ

トキソウ

サワラン

17 日(金曜日)最終日

5 時起床！どうやら雨は降っていない。夕べも早く寝られたので今朝も朝から絶好調だ！先に起きていた遠藤さんが今朝は朝焼けが見られたとのこと。今日は雨大丈夫かな？

本日の至仏登山の健脚組は昨日の 8 名に村重さんが加わり 9 名、平場の「まったりオプション組」は萩野、滝沢、田下、竹原、渡邊の 5 名。

今日は尾瀬ヶ原を満喫だ。6 時から皆で朝食を済ませ昨日同様に至仏山登山の健脚組をお見送り。どうやら午前中は何とか天気が持ちそうな気がする。至仏山も晴れると良いなあ！（勿論！期待を込めて！）

今日の行程は昨日行けなかった牛首分岐からヨツピ吊り橋方面へ向かい竜宮～牛首～山の鼻～鳩待峠までの約 14km を予定。

宿に荷物を預けて身軽にカメラだけ持って 8 時過ぎに出発。昨日と逆方向の燧ヶ岳方面に向かうので景色は昨日見た感じとは違ってまた良い感じだ！（振り返れば一緒だけど！）雨は降っていないが天候は曇り。至仏山の山頂も燧ヶ岳の山頂も望める。今日もまたまたラッキーだ！

牛首分岐からヨツピ川沿い(中田代対岸)へ来ると辺り一面「ニッコウキスゲ」の大群落が





出現した。よく見るとこの大群落は防鹿柵で囲まれている。看板には環境省が実施と書いてある。やはりこの防鹿柵のお陰で食害を受けずにこれだけの群落が保たれているのだと納得した。きつこうしなければ食害で消滅してしまうのだろうなあ！出来れば昨日の午後の晴れている時にこの「ニッコウキスゲ」の大群落と「燧ヶ岳」「至仏山」を入れて写真を撮りたかったなあ～！と悔やみながらヨッピー吊り橋に向かう。～「黄に染まる ニッコウキ

スゲ 我に笑み」～

ヨッピー吊り橋との分岐に到着し一休み。竹原さんから竜宮分岐に向かうこの先に「トキソウの白花」があったとのことで貴重な白花を撮影。後は山の鼻の宿に戻るだけ！とは言え 5.5km、100 分掛かる。幸い雨に降られず 11 時過ぎ宿に到着。預けていた荷物を受け取り 11 時 20 分頃、「雨よ！峠まで降らないでいてくれ！」と祈りつつ山の鼻ビジターセンターを出発。雨は今にも泣き出しそうな状況。鳩待ち峠までは 3.3km、標高差 181m でコースタイムは 1 時間 30 分、下りは 1 時間。待ち合わせ時刻の 12 時はちょっと厳しいな…！と思い少し早めに歩く。案の定 30 分程すると小雨が降り出した。



合羽、傘は必要ないと判断し荻野さんについて早め歩く。荻野さん真剣に歩くととても早い！何とも健脚だ！相変わらず木道は良く滑るので注意が必要だ。鳩待ち峠から下りて来られる方も多く、皆さんわりと軽

装で若者はスニーカーの者が多く見られた。恐らく尾瀬ヶ原を満喫するのだろう！歩荷の方にも何名かに行き会い「お疲れ様です。」と声を掛けた。



途中、木道の所々に滑り止め防止の網目のゴム製マットが敷かれていた。経費はかなり掛かりそうだが、滑り難くまた、クッション性もあり足に優しくとても歩き易い。これが普及すれば転倒する者も少なくなり、昨日の様に怪我をする方は激減するだろうと思いながら…鳩待ち峠を目指す。また、このルートは親切に峠までの距離がこまめに明示してあるのも大変有難い。峠まで 400m を切ると良く整備された石畳の階段が出てきた。雨でつるつるしていて大変滑り易くなっているの、最後の最後に転倒しないように慎重に登る。健脚組の「先発(せっかち)組は」既に到着して首を長くして待っているだろうと思い少しペースを上げながら

無事鳩待ち峠の売店に到着。山の鼻ビジターセンターを出発してから丁度 1 時間。あれ！健脚組(せっかち組)の姿がない。やはりこの雨降り足元が滑りやすく慎重に下山しているのだろう。(下りルートは蛇紋岩で滑りやすく特にこの雨では非常に滑りやすい状況が予想される。誰も怪我をせず下山できるようにと無事を祈りつつ…！)

平場組の 5 名で早速、売店で冷たいビールを購入し乾杯となった。待つこと 20～30 分先陣をきって立花さんが下山。他の者も順次下山されるとのことだ。また冷たいビールで無事下山に乾杯！続いて鈴木、中嶋…！順次下山し、また乾杯だ。13 時 15 分過ぎ？最終組が無事下山し、全員集合となった。程なくしてシャトルバスに乗り込み鳩待ち峠を出発。結構スピードを出す運転手さんのお陰？で暫くして「スノーパーク尾瀬戸倉駐車場」に到着。



迎えに来てくれているバスに乗車し途中、道の駅で昼食、土産等の買い物、コンビニでアルコールを補給し帰路に就いた。

参加された皆様！大変お疲れ様でした。特に雨の中、健脚組の燧ヶ岳、至仏山登山をされ幾度も転倒しながら怪我をされることなく無事に下山された皆様には敬意を表します。

今回の研修会は新型コロナ禍の中 14名と少ない参加者でしたが、宿泊施設の対応、雨の中で何回も転倒しながら登山等様々な体験ができ思い出に残る「尾瀬ヶ原満喫の現地研修会」となりました。お世話になり有難うございました！

レポーター：ペンネーム：瀬祭036 (DASSAI036) 改め beans NABE036 ことドラエモン

花の尾瀬 初探訪

— 第47回現地研修会（尾瀬ヶ原と至仏山） お花報告 —

村重 恵美

あこがれの尾瀬、機会が巡ってきました。とはいえコロナ禍、ほぼ中止の心づもりでおりました。しかしさすが友の会、決行のお知らせです。自粛で暇をもてあましていたのに何の下調べもしていません。その上、天気予報も期待薄。小さいカメラを携えて出かけました。

歩き始めれば雨。登り下りのある木道は滑る滑る！ 三平峠を越え、尾瀬沼に到着。沼は白く霞んで見えませんが平場の木道を進むとあたりは確かに沼のほとり、湿原が続きます。とても色の濃い派手な「トキソウ」らしき花が目立ちます。たまに見慣れた色のトキソウも咲いています。ワタスゲは水を滴らせ重そう。見たことのない純白ラン系の花やニッコウキスゲも咲いていました。

雨はしっかり降り続き、初日からカメラが不調です。防水で衝撃にも強いはずなのに。

尾瀬沼ヒュッテに到着、館内をウロウロするうちに「あの派手な花はサワラン」との情報。朱鷺の色をしていないトキソウではなかったのか。同行の皆さんは博識で情報通でほんとに頼りになります。

2日目は登山組を送り出し、花を求めて散策へ。雨ですが。

大江湿原には見頃のニッコウキスゲが見渡す限り続いていました。進むと咲き始めたキンコウカが雨粒の中に光る星のようにどこまでも広がっています。かわいくて好きな花です。だんだん沼が姿を現し、その大きさがわかってきました。とても幻想的な風景に見惚れます。

木道の脇にはノアザミ、純白ラン系、カキツバタ、ヒオウギアヤメ、クルマユリ・・・森の中へ入るとハリブキ、ゴゼンタチバナ、オオバノヨツバムグラ、ハクサンシャクナゲ、ホツツジ(蕾)、ミネザクラ(実)などなど。



ミツガシワ

尾瀬ヶ原への道はまた滑りやすい木道や崖、岩場もあり想像していたより山道でした。カメラはさらに調子が悪く、ズームや接写はできず霞んで焦点もなかなか合わなくなっていました。困ったなあ。

見晴への道で出会った花 オヒルムシロ(土筆のような花)、ヤマサギソウ、ホソバノキソチドリ、ハクサンチドリ、ツルコケモモ、タテヤマリンドウ、モウセンゴケ、コバノトンボソウ、トリカブト、ネコノメソウ、ミツガシワ(葉)、オオバタケシマラン、ショウキラン、バイケイソウ、クロヅル、クガイソウ etc.

午後の部出発。尾瀬ヶ原は全貌を見せてくれません。とは言え、湿原らしい花が次々現れます。北へ西へと進むと山の端、清流、景色は変化に富んでいます。出会った花は、サケバサワヒヨドリ、ヒツジグサ、サギスゲ、ハイイヌツゲ、ナツトウダイ、オタカラコウ、ウラジロヨウラク、ツルコケモモ(実)、ハクサンタイゲキなど。オニノヤガラも発見！ 葉っぱが真っ赤で一際目立つ草がありました。花はピンクが淡くなり、実を結び始めているようです。のちに調べるとイワアカバナ。なるほど「アカバナという名は葉の鮮やかな色づきからつけられた」そうです。

東電小屋前で小休止しているとにわかには雲が切れ、雨が紫外線に変わりました。青空と白い雲が夏らしい。吊り橋を渡り、やっと湿原の全貌を見渡しながら進むと竜宮現象観察中に登山組と合流できました。雲の合間に山も見えてきました。

ヒツジグサの葉が絵のような池塘の景色を眺めていると、あちこちで水際が赤い帯になっていることに気づきました。望遠にできないカメラで一応写真を撮っておくも気になります。たぶんモウセンゴケ。すごい群生。やっと足元で確認できる場所にくるとめずらしいナガバノモウセンゴケです。尾瀬沼周辺で見たモウセンゴケが見慣れたものと異なり、葉が長く立ち上がっていたのでそれをナガバノ・・としましたが違いました。午前中に見たものは丸い匙の柄が長く伸びた形の葉、そして尾瀬ヶ原のものは葉全体が細く長い。あとで調べて納得しました。花のつき方も違い、モウセンゴケの花茎がヒョロッと長く伸びるのに比べナガバノ・・の花茎は葉の少し上までしか伸びていませんでした。もう一度見に行きたい。



モウセンゴケの帯

山の鼻に近づくとオニシモツケやヤマオダマキもありました。至仏山荘に落ち着くとまた情報が入ります。純白ラン系は「ミズチドリ」。キンコウカの間には不思議な壺のような細長いものがたくさんあったのは「タテヤマリンドウの種」だと教えていただきました。

3日目は至仏山へ。樹林帯を抜けると興奮の花盛りです。重い足取りに加え写真を撮らずには先に進めません。これは何？これは？と興味を持ってくださる方とはお話しも止められなくなり、終始皆さんをお待たせしてしまいました。ごめんなさい。

岩の間に生えていたネギは、うちの近所(白馬村)で見つければシロウマアサツキ。ここでは何？ ただの菊と言われてしまったミヤマアズマギクは信州と同じだろうか？ 全く見たことのない花も出てきた！ ゆっくり見たいけれど壊れかけのカメラに収めて先に進まなくては！！ イブキジャコウソウの香りは皆さん楽しんでいただけましたね。元気が出ましたね。

帰ってから書物を紐解くと、ネギはシロウマの変種シブシアサツキ。菊はミヤマアズマギクの変種ジョウシュウアズマギク。花が大きいヨツバシオガマ似はタカネシオガマなどいろいろ発見がありました。

山頂近くでは尾瀬といえばエーデルワイス、その日本版ミネウスユキソウと蛇紋岩好きのホソバヒナウスユキソウが競演中。可憐なホソバツメクサもたくさんありました。

登山道の花たち ダイモンジソウ、ハナニガナ、エゾウサギギク、ネバリノギラン、ヨツバシオガマ、タカネアオヤギソウ、タカネナデシコ、タカネバラ、ハクサンイチゲ(群生)、イワカガミ、ユキワリソウ、チングルマ、ハクサンシャクナゲ(白花)、ジョウエツキバナノコマノツメ(固有種)、シナノキンバイ、イワシモツケ、ツマトリソウ、マイヅルソウ、ミツバオウレン、ヤグルマソウ、ウスバサイシンなど。雪解けの花から夏の花まで見事でした。

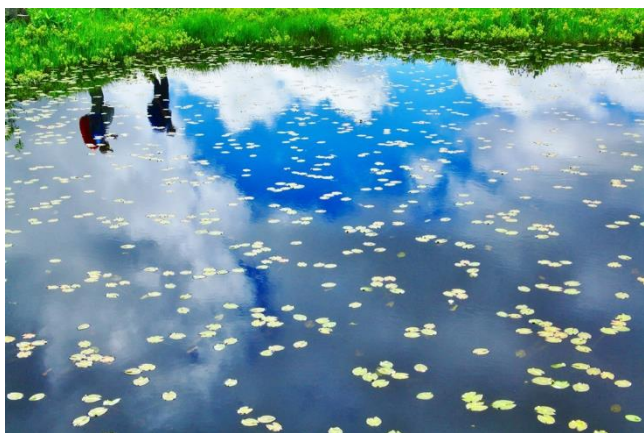
下山途中、目を見張るような花園がありました。登りで気づいた初見の小さな緑の花がニョ

キニヨキすごい数です。何だろう、初めて見た！と発すると行きあつた方が「オゼソウというんですよ。今しか見られないんですよ。」と教えていただきました。初尾瀬で見られたのはとてもラッキーでした。

とうとう酷使したカメラのバッテリーが切れ。携帯を取り出そうとすると同行の氏の「もういいんじゃない？」とのお声がけ。諦めがつき鳩待峠へ無事下山となりました。

花に癒され大満足の3日間、ありがとうございました。

(壊れかけのカメラで撮った写真をもとに同定しています。間違いやもっと咲いていたよなどの情報お寄せください。)



編集後記

今号は尾瀬研修特集です。梅雨期の開催でしたが、2日目は途中から晴れたそうです。今号も興味深く楽しい報告と美しい写真が満載です。ぜひご一読ください。

《左の写真》

青空を映す池塘 上田代

撮影：荻野秀夫

信州大学山岳友の会会報 第38号

発行日：2020年9月23日

発行：信州大学山岳友の会

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

信州大学山岳友の会事務局

TEL：0263-37-3332

FAX：0263-37-2438

E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp